

岡三証券SDGsトークイベント

JICAと話そう！ 国際協力 ～アフリカから考える新たな時代の実現のために～

第2部 サステナブルファイナンスが創る未来

日本の食農バリューチェーンと アフリカをはじめとする国際協力を考える

2025年7月29日

農林中央金庫

経営企画部 部長

野田 治男

農林中央金庫の経営システム

- 農林中金はパーパスのもと、重要課題、中期ビジョン、共有価値観を定め、パーパスの達成に向けて組織が一体となった事業を展開。

理念

Purpose

持続可能な環境や社会のために
未来に向けてどのような
貢献をしていくのか

重要課題

Materiality

中長期に向き合っていく
環境・社会課題

事業活動

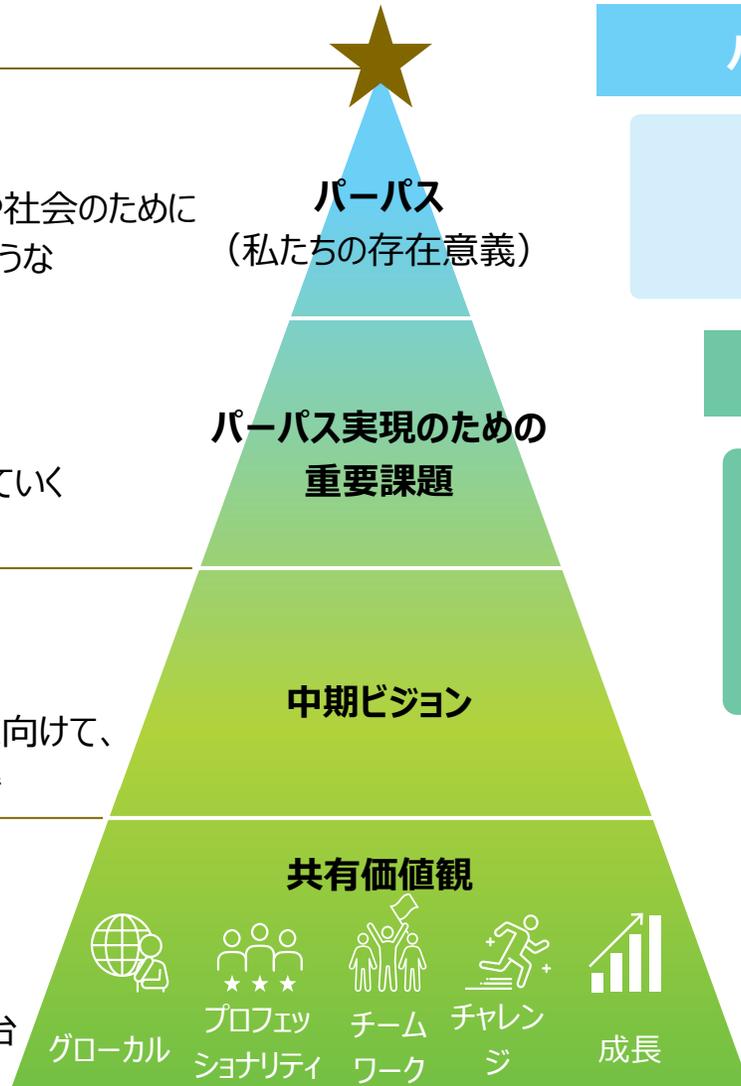
Vision / Strategy

重要課題の解決に向けて、
中期的に目指す姿

価値観

Shared Value

日々業務を
実践するための土台



パーパス (私たちの存在意義)

持てるすべてを「いのち」に向けて。
ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、
豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます

パーパス実現のための重要課題



脱炭素
社会の実現



自然と共生
する社会の
実現



農林水産業の
“稼ぐ力”の強化



強靱な食糧
システムの実現



国内外での
“豊かな”くらしの
実現

中期ビジョン

経営の“羅針盤”に位置づけ、毎年の事業運営にあたっている。

Nochu Vision 2030 ~未来を見据え、変化に挑む~

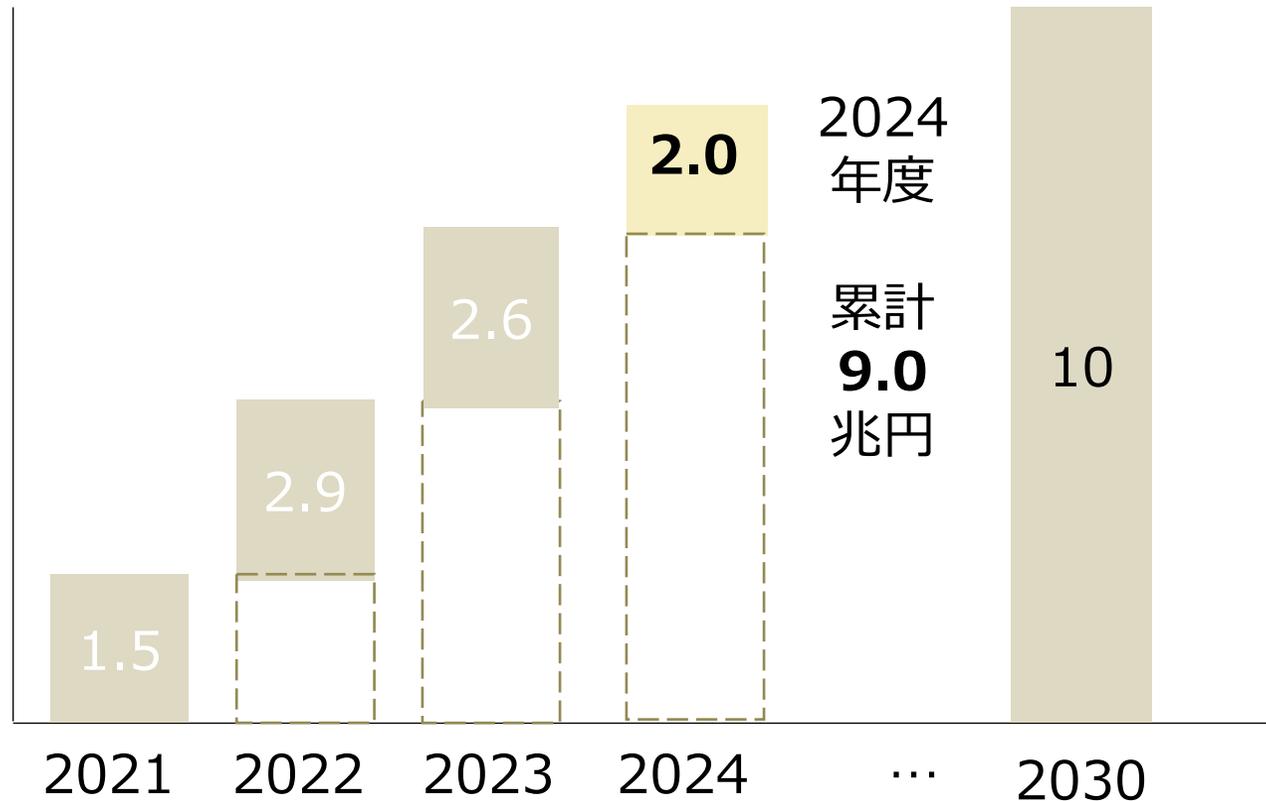
農林中央金庫のサステナブルファイナンス

- グローバルに投融資を行う金融機関として、国内外のサステナブルファイナンスへの投融資を推進。
- 海外における“生物多様性の促進”や“アフリカの食料増産”をテーマとするボンド等にも投資。

サステナブルファイナンス新規実行額の実績推移

単位：兆円

2030年目標



投融資事例



**IFC グリーンボンド
(2024年12月)**

300

百万豪ドル

資金充当のプロジェクト事例

- 生物多様性にかかるサステナビリティ・リンクローンの実施
- 自然ベースのカーボンクレジット組成



**アフリカ開発銀行
フィード・アフリカ・ボンド
(2022年9月)**

100

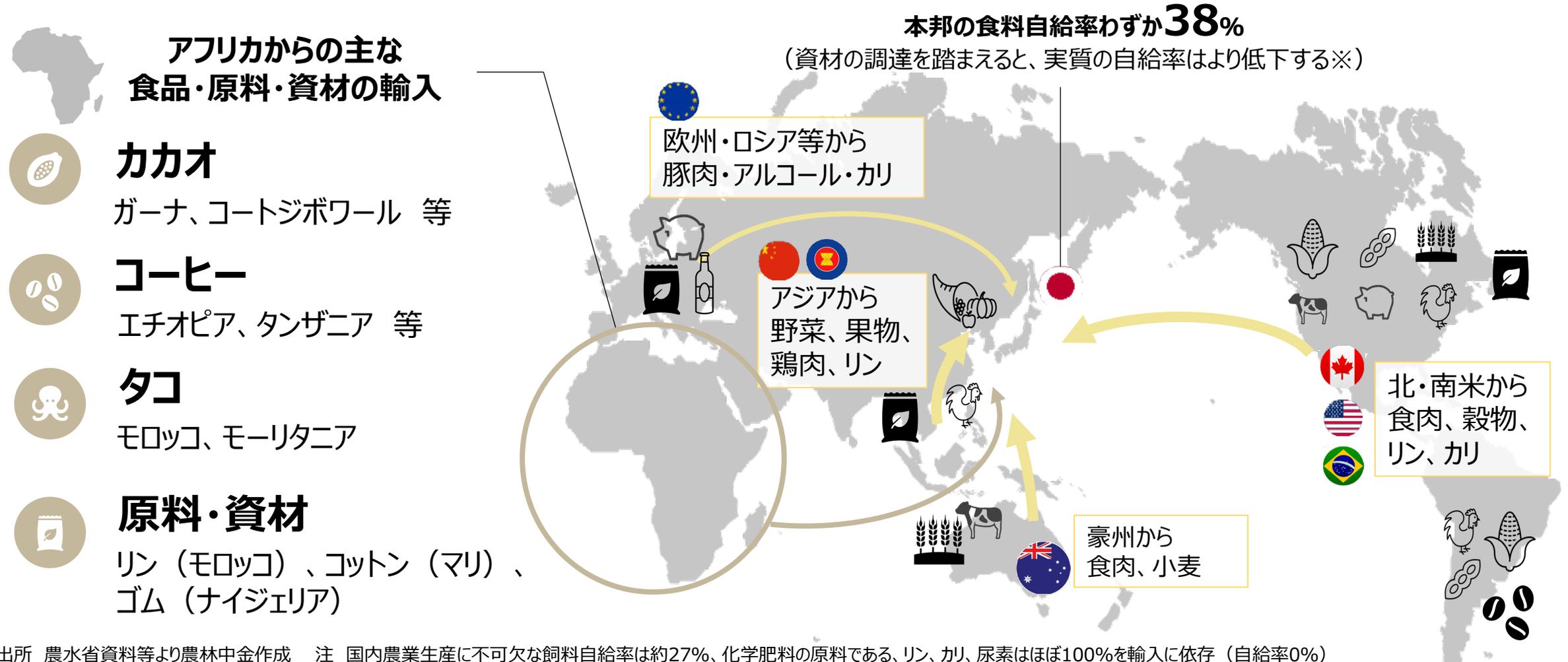
百万米ドル

資金充当のプロジェクト事例

- チュニジアにおける灌漑農業改善等、アフリカの食料増産に資するプロジェクト

国際協力を考える：日本の食の海外依存

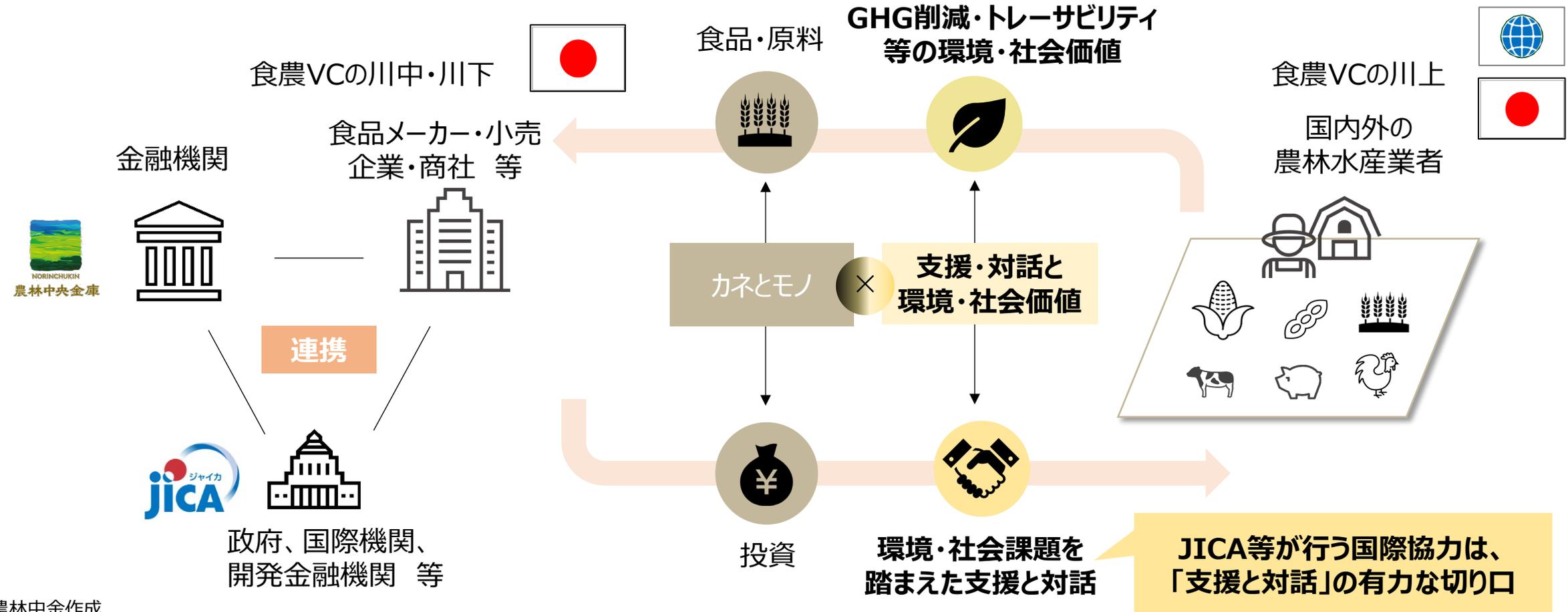
- 日本の食農バリューチェーン（VC）は輸入に大きく依存。気候、自然、社会等のサステナビリティがスタンダードとなる中、単に“カネ”を出して、“モノ”を買うという考え方は通用しない世の中へ。
- 持続的な食料バリューチェーンへの移行、食糧安全保障の観点からも、サステナブルファイナンスが必要。



出所 農水省資料等より農林中金作成 注 国内農業生産に不可欠な飼料自給率は約27%、化学肥料の原料である、リン、カリ、尿素はほぼ100%を輸入に依存（自給率0%）

国際協力を考える：企業・国際機関等と連携した食農VCのトランジション推進

- 食農VCは、川中・川下からの支援と対話-川上からの環境・社会価値が還流する状態への移行（トランジション）が喫緊課題。
- 農林中金は食農VCに責任と役割を果たす金融機関として、政府・国際機関等と連携。サステナブルファイナンスを通じて、トランジションを推進。



出所 農林中金作成

- 本資料は情報提供を目的として作成されたものです。
- 本資料は作成時点で作成者が信頼に足ると判断した情報をもとに作成されておりますが、情報の正確性・完全性を保証するものでもないことから、掲載された情報等を用いたことによって生じた損失については一切の責任を負いかねます。
- 本資料の内容は個別の状況に照らして妥当または適切であることを保証するものではありません。本資料に記載された内容の実施に際しては、これらの事項について妥当とされる専門家に助言を求める必要があります。
- 農林中央金庫の書面による許可なく本資料を第三者へ開示・複製・配布はなされませんようお願いいたします。
- 農林中央金庫およびグループ会社のアドバイザリーサービス、投融資を受けるにあたっては所定の審査、手続きが必要となり、ご希望に添えない場合もありますのであらかじめご了承ください。